

# ヘンリー・フォールズ『ニッポン滞在の9年間 -日本の生活と仕来りの概観』 [第14章]

|       |  |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者: 明治大学教養論集刊行会<br>公開日: 2022-03-28<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 長岡, 史郎, 高畠, 美代子<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/10291/22149">http://hdl.handle.net/10291/22149</a>  |

# ヘンリー・フォールズ

## 『ニッポン滞在の9年間—日本の生活と仕来りの概観』

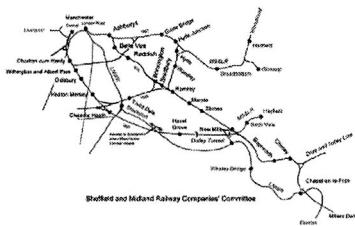
〔第 14 章〕

長尾史郎  
高畑美代子

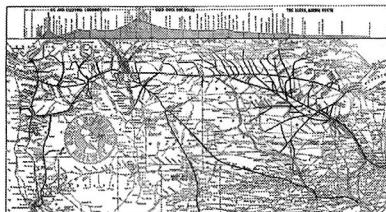
第14章 東海道の十日間

旅行者や研究者を混乱させる重複する地理的な区分の、中でも、日本の古く大きな諸街道と結びついて恒久的に世に知られたようなものは多分他に無いだろう。ミッドランド<sup>1</sup>、大北部<sup>2</sup>、等々のような鉄道体系により英國を大区域や循分に分割することに日々慣れ親しんでいるならば、この日本の独特な配置にどうにか見当をつけることができるだろう。東海道——つまり「東の海の路」——は、本州つまり主要島嶼の南海岸に沿って京都（旧都）

1 ミッドランド鉄道(ミッドランドでつどう、英語:Midland Railway、略称MR)は、1844年から1922年まで存在していたイギリスの鉄道会社で、同年合併してロンドン・ミッドランド・アンド・スコティッシュ鉄道となった。[ミッドランド鉄道 - Wikipedia]



Sketch map of Midland Railway lines into Manchester



2 グレート・ノーザン鉄道(Great Northern Railway, GNR)は1846年のロンドン&ヨーク鉄道法により設置されたイギリスの鉄道会社である。[グレート・ノーザン鉄道(イギリス) - Wikipedia : 上図右]

から東に首都東京まで走る、沿道の地方を含む道路のことである。

あるアメリカ人教授と一緒に、汽船で、やや荒れ氣味の海を渡り神戸に到着した——病み、汚れ、惨めで、蒼ざめたすし詰めの痛ましい日本人同乗者たちに囲まれて（もしそんなことが可能ならばだが、彼らは我々自身以上に船酔いし、悲惨だった）。土砂降りの雨が降り注ぎ、刺すような風は、上陸する我々の体の芯まで冷やした。心地良い熱い風呂、ぐっすりとした睡眠、真昼になっていたがその日のたっぷりした最初の食事の後で、雨できれいさっぱりと洗い流された居留地を見て回った。神戸は「外人」が建設した現代的な町<sup>3</sup>で、規則正しく良く敷設された道路があった。家々は普通は二色に塗られ——イタリア風だ——、とても感じ良い外観だった。居留地は一連の広い低木に覆われた礫岩の連続する段丘の上に打ち建てられ、鬱蒼とした森林と痩せこけた低木の茂みで変化をつけた高い丘陵の連なりで取り囲まれているように見える。近くに兵庫<sup>Hiroshima</sup>がある——典型的な昔ながらの町で、そこには今、大阪と京都に（そして、さらに、望むらくはやがて東京まで）通じる、周到に練った鉄道の広大なターミナル駅がある。あまり水量の多くはない滝<sup>4</sup>が——私の友は「*one horse fall*」と名付けた——神戸近辺の訪問者の主な楽しみだ。だが、それを囲む暗い植生はとてもロマンチックで美しく、一か二人の信心深い人が震えながら、主滝の脇のかなりの量の細い水の流れで、「冷水に撃たれる滝行」の懲悔をしていた——これは思うに、我

3 ハート (John William Hart 1837?-1900) イギリス人土木技師、1868年6月26日(慶應4年5月7日)横浜到着。まもなく神戸に行き、伊藤博文のもとで居留地行事局顧問技師として護岸堤防、海岸の埋立、下水道の設計など居留地の計画と施工監督に携わった。1868年8月26日(慶應年7月9日)に神戸居留地で開業。(田井玲子『外国人居留地と神戸』 p.36、一部変更)

4 布引の滝(ぬのびきのたき)——神戸市中央区を流れる布引溪流(名水百選)にある4つの滝の総称。…かつて役小角が開いた滝勝寺の修驗道行場として下界とは一線を画する地であった…六甲山の麓を流れる生田川の中流(布引溪流)に位置し、上流から順に、雄滝(おんたき)、夫婦滝(めおとだき)、鼓滝(つつみだき)、雌滝(めんたき)からなる。

が正直な英國の B. と S. の宗教的な代替物だ——。

どちらかと言うとあてもなく居留地をぶらぶらした後で、大阪までの切符を買った——大阪は臨時の鉄道の終着駅だった。

鉄道は、神戸を囲む連山の標高の高いところで支線と交わった後、一気に大阪方面へ下るが、直進すること矢の如しで、一連の坂と平地が交代して、傾斜の頂上から見るとかなり心に刻まれる眺めだ。交通は當時でさえ極めて良好で、日本の鉄道の究極の成功を十分、予兆していた。今私はわかったのだが、我が國の同様の輸送力を持つどれにもほぼ匹敵し、収益も遜色無い。

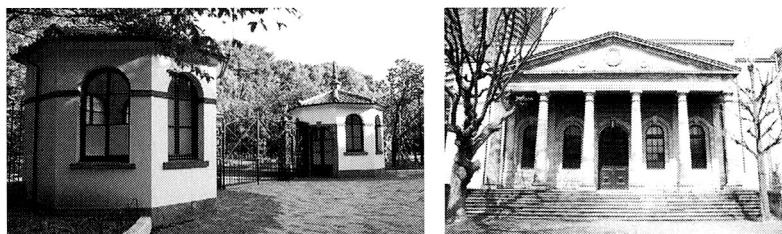
大阪はかつては日本の主要な商業都市であり、今も 400,000 人を下らぬ住民を擁し、多大な歴史的興味のある非常に古い、お豪のある城、現代的な造



[左] (雄滝) [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B8%83%E5%BC%95%E3%81%AE%E6%BB%9D] [右] 撮影：日下部金兵衛, 1890 年頃

幣所<sup>5</sup>、弾薬庫、重要な守備隊<sup>6</sup>を誇っている。居住外国人はほとんど居ず、主として宣教師か政府雇員だ。立地は海から遠くなく、浅い河の両岸にあるが、河はいつか浚渫しなければならず、町は直交する多くの運河で刻まれている。運河に差し出て建つ家々<sup>7</sup>は極めて特徴的な日本的情景で、私には、ロマンス作品に描かれている奇妙な古い挿絵を強く思い起こさせる。

5 造幣局——明治新政府は1868年5月16日(慶應4年4月24日)に旧金座および銀座を接收し、6月11日(慶應4年閏4月21日)に貨幣司を設けて二分判および一分銀などの鋳造を引き継がせている。1869年3月17日(明治2年2月5日)に貨幣司が廃止されて太政官に造幣局が設置され、8月15日(明治2年7月8日)に造幣局は造幣寮へ改称されて大蔵省所属となる。



(造幣局本局〔創設時の門〕) [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%80%A0%E5%B9%A3%E5%B1%80\_(%E6%97%A5%E6%9C%AC)#.E6.B2.BF.E9.9D.A9] [右] 旧造幣寮鋳造所正面玄関

6 歩兵第八聯隊——大日本帝国陸軍の連隊のひとつ。／大阪鎮台・第4師団の中核部隊であった。明治の陸軍草創期からある〔創設：1874年〕古参の歩兵連隊で、佐賀の乱、萩の乱、西南戦争、日露戦争、第一次上海事変、第2次バターン半島攻略戦等で活躍する。[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%AD%A9%E5%85%B5%E7%AC%AC8%E9%80%A3%E9%9A%8A]

[参考] 中野公策 編『大阪と八連隊：大阪師団抄史』1985。[図右] 旧第4師団司令部庁舎



7 [参考] 外国人の見た大阪の河川に関する記述とその概要文

エドワルド・スエンソン [Edouard Suenson、デンマーク海軍々人で幕末日本に滞在]



[近畿地方の地図]

町から少し上の一定の諸地点からは、陽の光の中できらきら光る帆の白いL字型の染みを遠くに見晴らすことができたが、それはかつて、信任と名声のある一市民がなした有名な航海を思い起こさせた——それは当時の一

——家はほとんどが二階建ての細長い建物で、露台が水の上に突き出ていて、ほかの日本の家屋同様、障子と窓がたくさんついていた。一階には扉があつて階段がついており、河まで下りられるようになつていて、ヴェニスのゴンドラと同じく、三板〔舳板、ランチ。〕を直に着けることができた\*。

\* E. スエンソン『江戸幕末滞在記』長島要一訳、講談社、p.229。

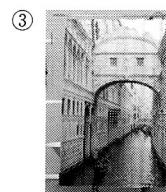
小泉八雲——これらの水路の一筋を見通す眺めは、街路の通景のようなものとして、これほど珍しいものが殆ど日本にあるまい。／運河は鏡の面の如く静かに、両岸の家屋を支えている高い石垣の堤壁の間を流れて行く。／二階及び三階の家屋が、すべて丸太を施して石垣の外へのばされ、正面はそくり水上に張り出している。[「歴史と感性を考慮した河川整備のあり方についての調査研究」——<http://www.kasenseibikin.jp/seibikin/h18/pdf/repl-22.pdf>]

○良い事例ではないが——

①東本願寺別邸涉成園：臨池亭、滴翠軒——臨池亭（左）は池に臨んで建てられているので、滴翠軒（右）は池に落ちる小滝（滴翠）からそう呼ばれている。滴翠軒も縁側が池に張り出し、両者は吹き放しの渡り廊下でつながっている。（東本願寺発行のガイドブックより。）[下図左]



[[http://www.oh-syaken.sakura.ne.jp/\\_share/index.html](http://www.oh-syaken.sakura.ne.jp/_share/index.html)]

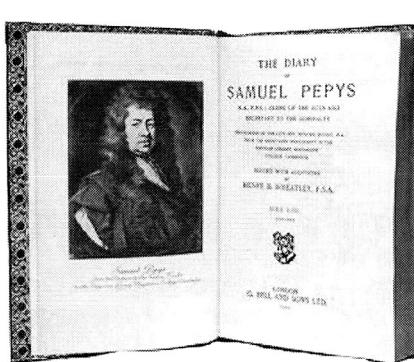


②〔殿の倉〕現在「立花家史料館」（福岡県柳川市）——<http://suiryo.blog27.fc2.com/blog-entry-1120.html?m2=form>；上図中】 ③ヴェニスの運河 [上図右]

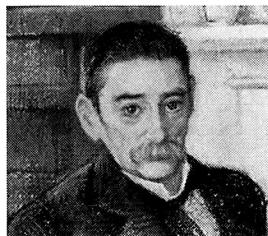
種の詩的なピーブス<sup>8</sup>で、その旧世界の日記の興味深い説明を我々はアストン氏<sup>9</sup>——我が国の学者にして朝鮮総領事——に負っている。

終わりの無い半ば死んでかつ生きている街路を歩き回った後、フランス風ホテル<sup>10</sup>を見出し夕食をとったが——それは日仏の料理法の最悪の諸特徴

8 サミュエル・ピーブス (Samuel Pepys, 1633-1703) ——17世紀に活躍したイギリスの官僚。王政復古の時流に乗り、一平民からイギリス海軍の最高実力者にまで出世した人物であり、国会議員及び王立協会の会長も務めた。一般には1660年から1669年にかけて記した詳細な日記【下図】で知られているが、官僚としての業績も大きく、王政復古後の海軍再建に手腕を発揮したことにより「イギリス海軍の父」とも呼ばれている。



Shinto  
William George Aston



The Perfect Library

[<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B5%E3%83%9F%E3%83%A5%E3%82%A8%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%94%E3%83%BC%E3%83%97%E3%82%B9>]

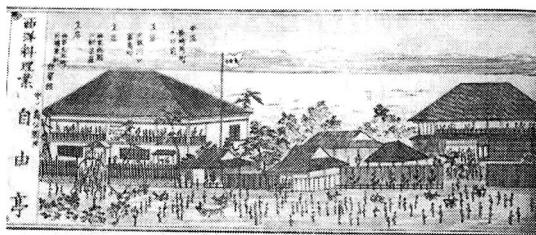
9 ウィリアム・ジョージ・アストン (英: William George Aston, 1841-1911) ——英国の外交官、日本学者で朝鮮語の研究者でもある。アストンは、19世紀当時、始まったばかりの日本語および日本の歴史の研究に大きな貢献をした。アーネスト・サトウ、バジル・ホール・チェンバレンと並び、初期の著名な日本研究者である。[上図右] [<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%83%AA%E3%82%A2%E3%83%A0%E3%83%BB%E3%82%B8%E3%83%A7%E3%83%BC%E3%82%B8%E3%83%BB%E3%82%A2%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%B3#.E8.91.97.E6.9B.B8>]

アストンは駐日英國領事館の日本語通訳として1864(元治元年)初来日。1869年長崎から兵庫・大阪へ転任、2か月ほどで東京に転任。1884年駐朝鮮英國領事。1886年駐日公使館書記官。本書が出版された1885年1月アストンは駐朝鮮英國総領事であったためこのように記されているが、フォールズのこの旅行時には東京勤務だった。

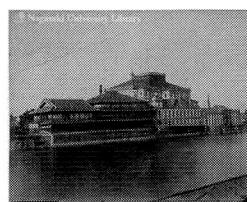
10 自由亭ホテル：1868年大阪川口居留地に隣接した梅本町にできた大阪で初めての西洋料理店兼ホテル。

のほとんどをごった混ぜにしたものだ——、一杯の素晴らしいコーヒーがそれ以前に起こったものを埋め合わせてほとんど余すことが無かった。日本人の召使を一人連れてきていたが、彼は、維新に先立つ大戦争中の自分自身の勇猛な行状について幾らかめちゃくちゃな話をして我々を楽しませ、自分の進軍を、純粋な金塊を満載した一連の去勢牛の曳く車<sup>bullock cart</sup>の護衛の一人だったと語ったが、それは將軍の時代に将校たちが懸命にもどこかへ埋蔵していて、何か重大危機が勃発したら掘り出すべきものだと、彼は全く確信していた！<sup>11</sup>

今や穩健なこの戦士は人力車を調達すべく派遣され、やがて、顔を紅潮させ口数が多くなって、それら一連の有用な乗り物と車夫を連れて戻った。法が厳格に定めたような支払い条件がかつて提示されたことは無かったように思われるが、しかし我々は、終には商談を、熱の入ったやり取りの後で取り決めた。というのは、マンキチ氏は、不敗の戦士であるとともに、行き済ました素人法律家でもあったからだ。実際、彼の性格は全く万華鏡の如くであった、というのは、我々はやがて、天文学と化石の究極的な原因についてのほとんど激烈な議論に巻き込まれたからだ。無価値なものとして多くが投げ捨てられた後で、取引は軽蔑される水準で成立し、失望した候補者たち



[1392698448\_photo.jpg (460×203) (keizai.biz)]



[自由亭ホテル 大阪梅本町 - Bing images]

11 德川埋蔵金——江戸時代末期の1867年に江戸幕府が大政奉還に際し、密かに埋蔵したとされる幕府再興のための軍資金である。埋蔵金は金塊あるいは貨幣とされる。  
[徳川埋蔵金 - Wikipedia]

が引き下がった——不運に対して善き本性を現してにやりと笑う日本の仕種で。

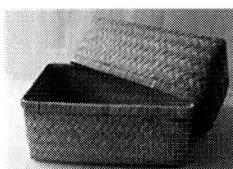
暑い季節に埃っぽい路を旅行するには白のリンネルを避けるのが最善だ——或るものは支那の青いフランネルを、他のものはズックd u c k<sup>military collar</sup>を付けたものをコートより好む。通常の白のスーツは数マイルで絶望的なほど埃まみれで落ちぶれた見てくれになった。私が最も便利だと思うのは、小さな食料を入れたスナップバッグと、行李k o r i<sup>13</sup>だ——これは伸縮性ある竹のこまい木舞で編まれた一種のバスケットで、二部に別れ、一方は、草ないし簾の煙草入れポーチのように他方の上に被さり、用途により容量が異なる。他のものは柳で出来ている。これらは日本の、丈夫で破れない油紙で包むことができ、人力車の幌の後ろに紐で括り付けられる。鞄satchel<sup>14</sup>は、徒步のときは肩に斜めに背負うと地質学的あるいは植物学的標本を入れると便利である。

二人の良い車夫があればあなた自身と軽量荷物を、いたずらに疲れることなく、時速約7マイルで運び、二、三回の短い休息・息継ぎの休止で一日に七、八時間、緊急時にはもっと永く走るだろう。短距離で、気候がよく、例外的に良好な道路上なら極めて迅速な仕事が時になされる。しかし、思うに、旅行者たちはしばしば人夫たちの持久力を誇張する傾向がある。職業走

12 a wide double-pointed★ collar that lies flat and open especially on a double-breasted coat [幅広く、衿角(point)が2つあり、特に二重胸合せコートでは、平坦で開いている(拙訳)]



[military uniform collar - Bing images]



★*Points-* the corners of a collar; in a buttoned-down collar, the points are fitted with buttonholes that attach to small buttons on the body of the shirt to hold the collar neatly in place.

13 行李[上図中]

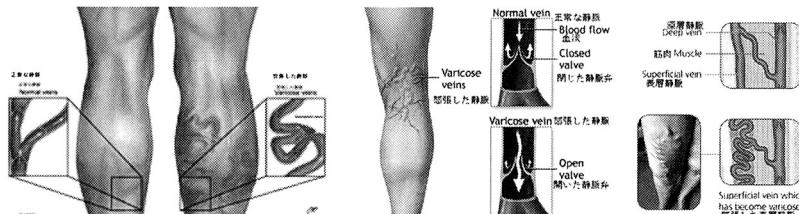
14 小型カバン[上図右]

者と競わされたとき、日本の人力車夫たちはさんざん**baddly beaten**。私自身、短距離を荷を積んだ人力車を曳いたことがあり、労働は——一定の**momentum**がつけば——人が想定するよりは少ないものだ。

人々はその職業がもとで重病になるということはない——9年間に及ぶ医療の経験（主として診療所における実践）からして私が判断できる限りでは。反対に、私の見たところ、彼らは、全体として非常に健康な階層で、その倒れた者たちは主として、既に他の諸要因——大酒や不健康など——で失敗している者たちだ。<sup>by-janes</sup> そうした者たちは雇用の脇道に逸れて、正常より低い料金で僧侶、病者、老婦人の買い物の手伝いに身を落としている。意欲的な人力車夫は正当な報酬を稼げ、自分が満足するだけ十分永く生きる合理的な期待を持つことができる。彼らが冒される特別の病気のことは知らないが、しかし幾らかのリューマチ、<sup>bronchitis</sup> 気管支炎等の悪性の事例——悪い天候への曝露から生じる（まさに農耕その他の場合のように）——は見たことがある。私はまた若干の脚の怒張した静脈<sup>varicose veins</sup><sup>15</sup>を見たことがあるが、しかしその疾病は英國の商店主にもっと多い——彼らが日中の大半を立って過ごすのが日本の車引に勝るからだ。

やがて古い城の脇を通過した——右側の薦が這った一つ目巨人のように巨大な

15



城壁が広い沼地の低い堤防に沿って走っていた<sup>16</sup>。沼地には稻田が鏤められ、美しい青色をした山々（輝かしく型どられた銀色の雲の堆積の下に低く横たわっている）に取り囲まれていた。

守口町<sup>17</sup>と呼ばれる郊外の小村に着いたとき、人夫たちは言うことを聞かなくなり、一くさりのちんぶんかんでまくし立てる俗語が飛び交い、それで、この先の永い曳行のための息がほとんど残っていなのは確実だった。集落の皺くちゃの、ぶるぶる震える老いた「長老」への制式の訴えで、取引が正式に成立し、厳かに調印された——署名は日本の慣習ではない。この考案は、以来、私が非常にありふれて見えたものだった。町の人夫たちは自分たちの契約を村の者たちに、自分の利益になるように売り渡したいと望んでいた。こんな風に売られることがつつくことはちょっと心地の良くないものだ。多くは契約破綻の理由と称されるもの——折れた発条<sup>ばね</sup>、神秘的な痙攣<sup>けいれん</sup>、足に刺さった棘——で、驚くべきものは無いが、この仕掛けはしばしば成功する。また路に戻った後、空は日没で黄色になっており——ここではめったに赤くならない——やがて暗い谷に入ると、既に夜はここに到達していた。ここで我々は乗り物から降りて、蒲<sup>がま</sup>でさらさら鳴る沼地を、見えない

16 守口城——守口城は1399年(応永6年)に起きた「応永の乱」の際に、大内義弘の家臣である杉九郎が居城したと伝わっています。その後「応仁の乱」や「石山合戦」などでたびたび戦場となっており、「石山合戦」では明智光秀がここを砦にしたそうですが、詳しいことはわかっていないません。現在城址には難宗寺が建てられていますが、所在地についても諸説あるようで、ただし近辺は宅地化されており現時点での特定は困難なようです。

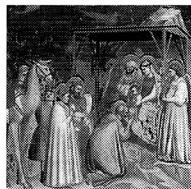
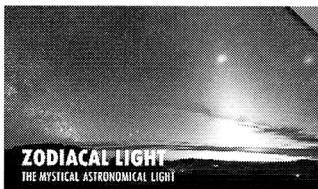


17 現守口市——大阪府北河内地域に位置する市。大阪市に隣接し、そのベッドタウンを形成する衛星都市の一つであると同時に、大阪都市圏における都市雇用圏の中心にも含まれる。[\[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AE%88%E5%8F%A3%E5%B8%82\]](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AE%88%E5%8F%A3%E5%B8%82)

フェリー船まで歩かなければならなかった——フェリーは多くの農民、<sup>hawker</sup> 豊臣  
その他がとても辛抱強く待っているものだった。暗い影は今や芦原の上に  
落ちかかり、色々な水鳥たちの哀愁をおびた鳴き声が静かな沼地に震えて  
響いていた。太陽は今やただ卵状の、<sup>fawn</sup> 黄道光<sup>18</sup> のような傾いた輝きとして  
のみ示され、一つ一つと色薄い星が、素晴らしい明るい空から震えながら  
覗き出て来た。会話は極く普通に天文学に転じたが、聞くも奇妙だったが、  
<sup>intending passenger</sup> 意図的な旅行者たちの或るものは、ベツレヘムの星がヘロデ王の心に冷たい  
恐怖を打ち込む<sup>19</sup> 2000年前に支那に導入されたと思われている体系について  
いかにも精通しているのだった。

どちらかというと稀だが、純粹な日本の歌に連れられて渡し場を渡った

18 黄道光 (こうどうこう)——天球上の黄道に沿って太陽を中心に帶状に見える淡い光の帶。



[図中] フィレンツェの画家ジョット・ディ・ボンドーネ(1267年 - 1337年)の「東方三博士の礼拝」。ベツレヘムの星は幼子の上空の彗星としてあらわされている。ジョットは1301年に出現した彗星(ハレー彗星)を見てこれを描いた。

19 ベツレヘムの星 (ベツレヘムのはし) またはクリスマスの星 (クリスマスのはし) ——東方の三博士 (別名「東方の三賢者」「東方の三賢王」) にイエス・キリストの誕生を知らせ、ベツレヘムに導いた、キリスト教徒にとって宗教的な星。マタイによる福音書によれば、博士たちは星の出現に靈感を受けて「東方」からエルサレムまで旅をした。[上図中]

キリストがベツレヘムで誕生した直後、東の国で誰も見たことがない星が西の空に見えた。東方の三博士 (カスパール、メルヒオール (メルキオールとも)、バルタザール) は、ユダヤ人の王が生まれた事を知り、その星に向かって旅を始めた。途中でユダヤのヘロデ王 [上図右] に会った3博士は、「ユダヤ人たちの王はどこで生まれたのでしょうか」と尋ねた。ヘロデは、自分にとって代わる王がいるのかと驚き、不安を覚え、3博士にその居所がわかれれば教えるように命じる。博士たちは星に導かれてさらにベツレヘムへの道を進み、星が止まつた真下に、母マリアに抱かれたイエスを見出して、彼に敬意を払って礼拝し、高価な珍しい贈り物を捧げた。しかし、夢でのお告げにより、ヘロデ王には知らせないまま帰国してしまったのである。後にヘロデは、自分の王座をおびやかす者を排除しようと、ベツレヘムとその周辺の2歳以下の男児を皆殺しにした (幼児虐殺) が、主の天使が夢でヨセフに現れ、この災厄を事前に知ったので、幼な子イエスとその母をつれてエジプトへ脱出して助かった。

[ベツレヘムの星 - Wikipedia]

後、永く乗り物で移動して通過したのはかすかなろうそくの明かりの灯った村々——ここには、ある場合に警告されたように荒く危険な人々が住んでいた——、暗い生垣と稻田であったが、とうとう、ほとんど眠気でこっくりこっくりしていたとき、長く暗い街道の終わりの無い道のりを進んでいて、その角毎に私は、血なまぐさい悲劇がちょうど適時に演じられていたかもしれないのではと感じたものだった。終に、陽気に明かりの灯るホテルに停止した——伝奇的雰囲気の日本式造作だが、しかし多くのヨーロッパ的な満足があつた——、そこでまさに日本の仕方の歓迎と、最良の挨拶を受けたのだった。

朝、我々はホテルの裏の絵のような坂の、木々の茂るじぐざぐの道で、新鮮な松脂の香るところを登り、赤く塗られた佛教の<sup>shrines</sup>寺院を訪れたが、それらは多くの背高く立派な木々の影の多い茂る葉の下に群をなしていた。私は詳細について記録を多く残したのだが、しかし読者にはあまり面白くはないと確信する。寺の働き手たちはちょうど、重い木の<sup>ram=shōtoku</sup><sub>bell-clapper</sub>撞木<sup>20</sup>を揺すっていたが、それは日本の寺院では鐘<sup>temple ground</sup>衝き人にとって義務を課すもので、鐘を外から力強く衝くのだが、しかし効果は大いなる柔らかさをもってである。ほんとうにびっくりしたのだが、青銅の巨人からの最初の朗々たる唸りが木の葉の茂る暗がりを通して最も音楽的な波をもって震えて響き、次第しだいに柔らかくなる音調で暑い町へと下って行き、ますます微かに微かに振動となって、遙かに谷を渡り、向こうの、頂上に神社を冠し、緑茂る丘陵へと伝わって行つたのだった。

日本の寺院の境内の梵鐘はしばしば、信心深い信者たちの本物の小判による

20



る喜捨を溶かして製造したもので、この慣習は私にはとても示唆的で麗しいものに思える。この理由からして、僧侶たちは言うのだ、自分たちの鐘の音調は著しく甘いのだ、というのも金と銀が、最良の梵鐘の構成の中に相当の比率で入っているからだ<sup>21</sup>、と——これは、少なくとも一つのケースについて、化学分析で確証されている。

アメリカ人の強引さとスコットランド人の抜け目なさの素晴らしい結合により、あらかじめ我々は京都御所訪問を申請しておいた——そこは当時、後代におけるようには訪問者に開かれてはいなかった。だから我々は、一時間かそこら後に、訪問を許可されたので大いに喜んだ——それは非常に懇懃な首都の高官から得られたもので、彼はこの旧帝都京都の知事<sup>22</sup>——一種の恒久的首長公——からの特別な許可の恩恵に与れたのだ。御所については言

21 銅貨の鋳込みについては、以下を参照——東 洋一「渡来銭と真土—鋳造環境からみた七条町・八条院町の立地条件ー」[<http://www.kyoto-arc.or.jp/news/kenkyu/10azuma.pdf>] 因みに、上記論文では金銀の成分については記述が無い。

[参考] 韻きをよくするために鋳造の際、指輪（金）を入れることがあるといわれ、江戸時代には小判を鋳込んだ例や、寄進された簪などを鋳込んだ例もある。雅楽と鐘の関係を記す文献もある。[梵鐘 - Wikipedia]

古文書によると、この梵鐘の鋳造は、本堂（觀音堂）前に囲いをつくり、森から采た鋳物師たちにより行われたとある。鋳造の当日は各地より集まった人でにぎわい、参詣者の中には現世のご利益を得ようと、金や銀の製品を鋳湯の中へ投げ入れたという。青銅のなかに金や銀を鋳込むと、鐘の音色が一段と冴えるといわれているからである。[龍禪寺の大梵鐘——歴史 ([e-kouryu.jp](http://e-kouryu.jp/))]

22 歴代の京都府知事 [明治時代] ——初代 長谷信篤（ながたにのぶあつ） 就任期間：慶應4年（1868）閏4月～明治8年（1875）7月／ 第2代 植村正直（まきむらまさなお） 就任期間：明治8年（1875）7月～明治14年1月／ 第3代 北垣国道（きたがきくにみち） 就任期間：明治14年（1881）1月～明治25年7月／ 第4代 千田貞暁（せんださだあき） 就任期間：明治25年（1892）7月～明治26年11月／ 第5代 中井弘（なかいひろし） 就任期間：明治26年（1893）11月～明治27年10月／ 第6代 渡辺千秋（わたなべちあき） 就任期間：明治27年（1894）10月～明治28年10月／ 第7代 山田信道（やまだのぶみち） 就任期間：明治28年（1895）10月～明治30年11月／ 第8代 内海忠勝（うつみただかつ） 就任期間：明治30年（1897）11月～明治33年3月／ 就任期間：明治30年（1897）11月～明治33年3月／ 第9代 高崎親章（たかさきちかあき） 就任期間：明治33年（1900）3月～明治35年2月／ 第10代 大森鍾一（おおもりしょういち） 就任期間：明治35年（1902）2月～大正5年（1916）4月 [<http://www.pref.kyoto.jp/hisho/11100003.html>]

うことはほとんど無い。多くの点において、広大で、費用が掛かっており、  
s e v e r e l y p l a i n  
 研ぎ澄まされたように簡素だ。しかし、そこには職業的旅行者を除けば誰にも興味あるものは無かった。

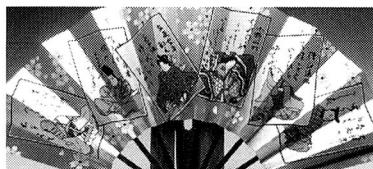
夜は、見つけし下さいの最新の英米の新聞を見て過ごした——どれもあまり取り立てていうほど新しいニュースはなかった。谷に夕影が目につくほど突然に下りたとき——谷には町がいとも美しく抱かれていた——、川床が（ほとんど干上がっていた）突然、広い赤っぽい光の炎で輝くのを見て驚いた。一方、一本の長い通りが、両側を色付けされた提灯の列で飾られていたが、日本の真っすぐの光線として伸びて、最後は、靄のかかった遠方で線は消失点で合流していた。それは毎年恒例の〔保津川〕river-opening 川開きで、我々にとって幸運にも、そのとき京都は、最良で最も特徴的な諸様相を見せる。レモンイエローの空（沈みゆく太陽でまだ光っている）、木の茂る谷の両側、松明と彩色提灯の赤っぽい光の対照は、女生徒が最初のパントマイムの後で持つどんな妖精の夢よりも魅惑的だった。急いで夕食を終え街に繰り出した——お祭り気分の市民がどうしているか見るためだ。京都婦人の歩き方、衣服、立ち居振る舞いは東京人よりもはるかに好ましく洗練されていて、髪はいつも綺麗に結われている。地域社会全般により昔氣質の几帳面な礼儀作法があり、言葉は、明瞭な表出と語句言い回しの選択との両方において、より潔癖さをもって話される。不愉快な鼻音「g」は東京では瀟洒しているが、京都では全く聞かれない。

京都は扇で有名なので、友人のために何本か優れて芸術的なものに財を支払った。その一本には良く描かれた空想的な、日本の偉大な古典的作者たちの一団（男女とも）があった<sup>23</sup>。別のとても面白いものは、この国で知られている色々な種類の楓の葉で構成され、優雅に対比された極めて多様な形と色が含まれていた。ダーウィンについて講義するとき、私は次の事実を指摘した——曰く、日本の芸術家はかくて、あらゆる、言うところの偶發的な多様性に美を見出してきたのであり、従って、客觀的な美は、宇宙を目的論的に眺めるときの有用性ある一つの局面として——未だに可能であったように——捉えられている、と。これや、それに似た図解は、私はそうだと見出したが、高度に教育を受けた日本の聴衆には、非常に効果的だった。

ひと時を、乾いた川床の目まいがするような群衆の真っただ中で過ごし、野外の語り師に耳を傾け、無言劇の演じ手たちに笑い、茶を飲み、薄荷菓子<sup>24</sup>を食べるのに没頭し、周りの世界に対し、また彼のとても落ち着いた婦人に對し、自由気ままな仕方でおしゃべりした。

来た道を戻るとき——生暖かく疲れきっていた——、杉、イボタノキ<sup>25</sup>、

23



金地六歌仙



茶扇 紅葉



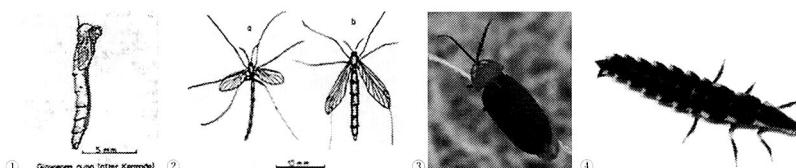
24 トフィー (toffee。日本ではしばしばタフィーとも) ——バター (と場合によっては小麦粉) と糖蜜または砂糖を加熱 (転化糖を生成) して作る菓子。材料は、150 - 160°C のハードクラックキャンディになるまで加熱する。ナッツやレーズンと混ぜて調理されることがある。[トフィー - Wikipedia]

25 イボタノキ (水蝋樹・疣取木、学名: *Ligustrum obtusifolium*) ——モクセイ科の落葉低木。日本各地の山野に自生。[上右図]

羊歯の入り混じった生垣が、ツチボタル<sup>26</sup>の淡いちらちら揺らめく緑の光であちこちで神秘的に光っており、また時折り、星のような蛍が葉っぱの間を音も無く漂っていた。ベンガルを旅していた時、私はずっと大きくもつと明るいのを見たが<sup>27</sup>——日本ではそれは全く無かった——、それは熱帯に近いほどとても著しく神秘的な現象で、同じ単一集団の全ての構成体が周期を一致させてリズミカルに明滅するのだ。

ちょうど間に合って、隣家の庭で、沢山の提灯の暗い蠟燭の明かりに照られて、宮庭の踊り——あるいはむしろ、オペラ的な衣装を着けたきざな仕種——を見たが、演じられる演目毎の本性とともに変わるものだった。どっちかと言うとかったるい演技で、あまりにも人工的で日本人をすら面白がらせなかった。

26 [参考] ヒカリキノコバエ（光茸蠅）とはハエ目（双翅目）キノコバエ科ヒカリキノコバエ属に分類される昆虫の総称である。この幼虫は青白い光を発するため土ボタルとして知られており、オーストラリア、ニュージーランドなどで洞窟観光資源の一つとされ、観光分野（ツアーパンフレット、ツアーサイトなど）でもそのように表記される。また、英名（glow worm）どおりグローワームとも呼ばれる昆虫である。日本で土ボタルといえば、ホタル類の幼虫、特にマドボタルの幼虫を指すことがおおい。[\[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%92%E3%82%AB%E3%83%AA%E3%82%AD%E3%83%8E%E3%82%B3%E3%83%90%E3%82%A8\]](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%92%E3%82%AB%E3%83%AA%E3%82%AD%E3%83%8E%E3%82%B3%E3%83%90%E3%82%A8)



①ツチボタルの蛹。15 mm～18 mm ②成虫。左が雄、右が雌。成虫には口がなく、食べ物をとらず、その多くは幼虫の餌になる。[ツチボタルについて（地下秘密コンテンツ）(rgr.jp)] ③マドボタル ④オオシママドボタルの幼虫

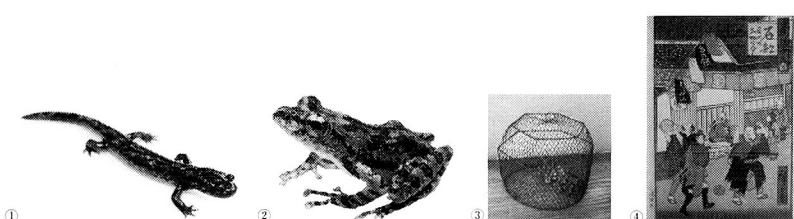
27 大きさ数 mm～30mm と言われる。



*Singing Frog (Drawn from Nature)* [歌うカエル [カジカ] (写生)]

京都を離れる前に磁器工場を訪ねたが、職人たちがとびきり美しい即興のデザインを、すらすらと手描きで絵付けするのを見るのは面白かった。近くの桶の中にイモリ様の大きな動物がひっそりしているのを認めた。  
 それは日本のサンショウウオ [下図①] の素晴らしい見本だった。私はカジカ——カワシカ（河の鹿）の縮約形——と呼ばれる一種の木登り蛙の死んだ見本を得たが、これは嵐山で見つかる（ここは京都から四、五マイルで素晴らしい桜の木で有名な地区だ）。この蛙 [下図②] はそのすぐれた音楽的な鳴き声で高く評価される、或るコオロギの音に似ており、またそれと同じく籠で飼われる<sup>28</sup>。餌は、閉じ込められているときは蠅だ。同様の蛙は日本の

28 「河鹿籠」は日本古来の夏の涼をよぶ楽しみです。／古くから日本ではカジカガエルを水盤などに籠をかぶせて飼育し、その声を楽しんだとされ、まさに「夏の粋」とも言えるでしょう。もしかすると、世界でもっとも古い両生類飼育の歴史かもしれません。[下図③ : <http://allabout.co.jp/gm/gc/69810/>]



[

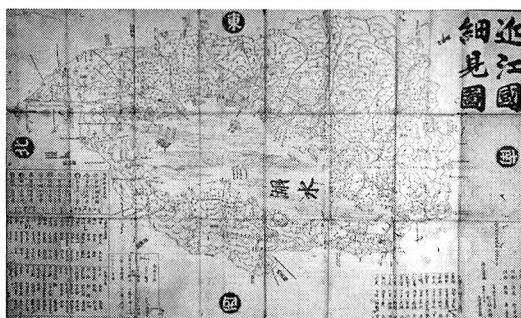
他の二、三箇所にも居り<sup>29</sup>、私は一度、東京で聞く幸運に恵まれたが、とてもきれいなとろけるような音調で鳴いていたが、味わうには音楽の才のない私は叙述しかねる。京都では見るべきものは全て訪ね、とても魅力的だという印象を残したが、それは、永遠に飛び去ってしまった封建時代の古き世界の物語を読んだのとほとんど変わることろが無いように思えた。

新規に敷設されたでこぼこ路を大津まで歩いたが、<sup>d e l u g e</sup> 土砂降りの雨に囚われ、そうした状況では琵琶湖と呼ばれる日本の大きな淡水湖の景観に幾分落胆したのだが、湖の名はその形がそういう名の日本の弦楽器に似ていると考えられたところから来ている<sup>30</sup>。東京への途上、最初の夜を石部<sup>31</sup>で過ごした。人々はとても注意深く、我々が夜の休みに退出するとすぐに、彼らは

29 日本では1936年に美川町(現:岩国市)の錦川中流域が「南桑カジカガエル生息地」、1944年に湯原町(現:真庭市)が「湯原カジカガエル生息地」として生息地が国の天然記念物に指定されている。[\[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AB%E3%82%B8%E3%82%AB%E3%82%AC%E3%82%A8%E3%83%AB\]](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AB%E3%82%B8%E3%82%AB%E3%82%AC%E3%82%A8%E3%83%AB)

30 「琵琶湖」という名前は江戸時代に付けられたもので、それまでは「鳩(にお)の海」、「近淡海(ちかつおうみ)」などと呼ばれていたそうです。

江戸時代ということであれば、測量技術はかなり発達しています。伊能忠敬の琵琶湖図が作成されたのは1807年ですが、それ以前の近江国細見図(1742年作成)などを見てても現在の地図にかなり近く、「琵琶湖」と名づけた人物がこのような絵図を見ていた可能性は十分にあると思います。[琵琶湖の名前の由来 - 琵琶湖の名前の由来は湖の形が楽器の琵琶に似ています - 地理学 | 教えて! goo]



[近江国細見図 - Bing images]



31 現滋賀県湖南市——「京立ち石部泊まり」と言われ、京都を旅立って最初に東海道で宿泊するのが石部宿だった。[上図右]

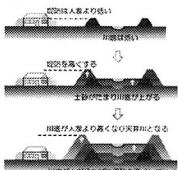
shutter

雨戸を閉じ、いかなる空気の通りも遮断してしまった。我々はこのやり方に反対して、老いた夜警がその場に現れたとき、首尾よく訴え出て、眠たげな反応を呼び起こし、拍子木を二回大きく打って同宿人たちの眼を覚ませたが、それを彼はひどく頻繁に行つた。我々は意を決して注言に及んだが、たちに我々は二択を迫られた——曰く、鋭い警笛の音で、——窒息かそれとも不眠か、と。夜警の監視がすぐに止むことを知つて我々は幾らかの空気を選好した。まさに私が予期したとおり、我々の安全の、尊敬すべき老守護者はすぐに静かに眠りに沈んだが、しかし、鶏鳴の前に一二度突然、立ち上がり、永い間の沈黙の埋め合わせに、拍子木を尋常でない激しさで打ち合せたのだった。日本では常にこうした成り行きだ——沈黙の夜警は眠っているものと信じられる。寝ずの番を証示するためには耳に届く証拠が要るのだ。

我々はやがて、奇妙な高められた川床raised river bedsを通り過ぎていたが<sup>32</sup>、それはロンバルディアの大平原<sup>33</sup>にあるもののように形成されていて、時々、それと

### 32 天井川(ceiling river)のことと思われる――

天井川(てんじょうがわ)とは、砂礫の堆積により河床(川底)が周辺の平面地よりも高くなった川である。川に堤防が作られ、氾濫がなくなると、河床に堆積した土砂の上を川が流れるようになり、次第に河床が上昇する。これに合わせて堤防を高くすることを繰り返すと天井川になる。天井川が氾濫すると河床のほうが周囲より高く、川に水を戻していくため被害が大きくなる。例えば、不動川(京都府木津川市山城町を流れる一級河川)が有名。[天井川 - Wikipedia]



由良谷川隧道



JR奈良線のトンネルの上を流れる玉川

33 ロンバルディア州(Lombardia)――イタリア共和国北西部に位置する州。州都はイタリア第二の都市であるミラノ。…県の中南部にあたるボーウ川流域の平原地帯では稲作がおこなわれていることから、米(カルナローリ種)はよく使われる食材である。また、この平原地帯は牛や豚などの集約的畜産業を可能にしており、牛乳、バター、クリーム、チーズや、ハム、ソーセージ、サラミといったさまざまの畜産品が生産され、料理に使用されている。[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AD%E3%83%B3%E3%83%90%E3%83%AB%E3%83%87%E3%82%A3%E3%82%A2%E5%B7%9E]

似た具合に、下方の平原に在る繫がりや通行を遮断する。

ゆっくりくつろげる日曜日を曾野<sup>34</sup>で過ごした。村人たちが金ではないかと疑っていた黄鉄鉱<sup>pyrite</sup>を含有する石英<sup>quartz</sup>の見本を持ってきた。私の友人は——かつてカリフォルニアの採掘現場で経験を積んでいた——それらの標本が帶びている金産出岩石との類似性に驚いていた。私は寺に行き、そこで年老いた農民が、住職<sup>rector</sup>と楽しそうに「茶飲み話<sup>35</sup>」をしているのを見た。私が居るのにちらっとも振り向かなかったが、しかし私が寺院についての幾らかの質問をすると、丁寧な答えが返ってきて愉快な会話を交わすことができた。

御油<sup>36</sup>が次の宿場だったが、自分たちは手入れの行き届いた庭に面していて、遠くに川に掛かる橋が見え、ロマンティックな美しい山脈を背景とした清潔できれいな小部屋を見つけた。

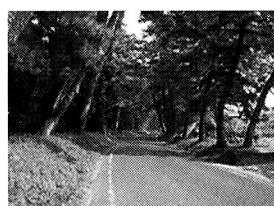
### 34 現愛知県岩倉市曾野町

35 Craic——アイルランド語。愉快なこと／楽しみを意味し、アルコール及び／ないし音楽と合わさったものとして英語に導入 [crack]。[<http://ja.urbandictionary.com/define.php?term=Craic>] 描説]

36 御油宿（ごゆしゅく、ごゆじゅく）——東海道五十三次の35番目の宿場。現在の愛知県豊川市御油町に所在。街道の面影を残す松並木（御油の松並木）が美しいことから観光地になっている。[<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%A1%E6%B2%B9%E5%AE%BF>]



〔左〕歌川広重『東海道五十三次・御油』旅籠の女が旅人らを無理矢理引きずり込もうとしているさまを描く

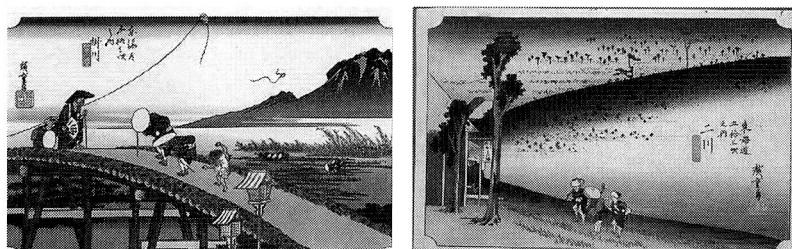


〔右〕御油の松並木

白坂<sup>37</sup> の大きながらんとした家で一夜を過ごした後だが、我々が受けた押しつぶされそうな礼節から判断するのだが、その慣習は離れ去って行きつつあるように思えた。庭に数本の黒檀の木があったが、他は何も無かった。畳は全て、縁が赤い布で仕上げてあったが、どうしてなのかわからず日本の他の場所で見た記憶も無い。

Suta Gawa<sup>38</sup> ジャンク  
二川<sup>38</sup> で一槽の帆船に乗り込み、他の人々も合流したので、大きな集団になった。出港するやいなや、船帆ははためき、それから、焼けつくような空のもと大嵐となった。私は、この航海の顛末<sup>てんまつ</sup>となったところのものほど陰鬱な話を人生で思い起こすことはできない。我々はやがて荒々しい拘束感に悩まされたが、それは単調さを少し和らげたが、しかし日本人たち自身が熱と救いようの無い沈滯にイラつき、誰も權<sup>か</sup>をとろうと誘われる者はいなかつた——十分な微風が後に起こらないかと思い、その場合、エネルギーの全くのロスだから——そうではないだろうか？ 広大で浅い入り江には——そこ

37 掛川 [図左] はかつて山内一豊が治めた城下町で、日本列島のほぼ真ん中に位置し、東海道五十三次の“白坂宿”があったところ。[第27宿]



[

38 二川宿 (ふたがわしゅく、ふたがわじゅく) は、東海道五十三次の33番目の宿場である。三河国最東端の宿場町である。征夷大将軍の天領であった。現在の愛知県豊橋市二川町と大岩町に相当する。[注 32 右図: <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%8C%E5%B7%9D%E5%A4%BF>]

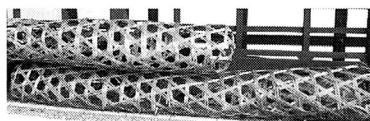
を棹差して進んだのだが——、スプラット<sup>39</sup>の大きさの小魚の大群が幾つもいて、それらが自らそっくり浮かび出てトビウオのようだった。私はそれらの本性を見ることができず、確かに、大きなトビウオを日本の海で見たことは無かった。

川のそれぞれの支流の岸は細心に大きな「蛇籠<sup>40</sup>」で内法面を覆われているが、それは、丈夫な割竹を穴の大きい網目に編んだものだ。それに川床から得られた大きな石をいっぱい詰め込んで、まるで太さが人体ほどで20～25フィートの長さの巨大なソーセージのようだ。それらは列をなして埋められ、やがて沈泥がその周りに蓄積し、もしも波に運び去られないならば植物が生え、さらに堤防を防護するのだ。

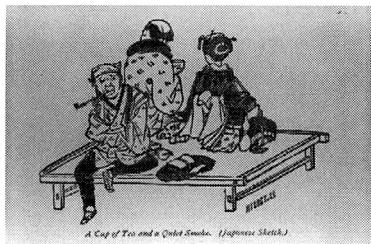
道は途上のほとんどで松の老木が並び、ある日本的小説のみすばらしい物乞いは、自分の命運が、名も無く、人に忘れられ、そうした大木の一つの木陰で終わるのを常に眺めているのだ。電信はほとんど路全体を通して見られる。或る所々で大きな蜘蛛が路に架かって丈夫な糸を張り、まるで荷造用紐から出来ているような蜘蛛の巣が弾けてブーンと鳴ってひりひりする顔をぴしゃりと打つ。

39 スプラット(英: Sprat)は、ニシン目・ニシン科に分類される魚の一種。広く分布する小魚で、食用にされる。ニシンのような味の小魚で、全世界中に分布する。キビナゴと訳されることもある。狭義には、ヨーロピアンスプラット (*Sprattus sprattus*) を指すが、広義には、ニシン科の小魚を指す。9～16cm [次注図左][スプラット - Wikipedia] :

40 snake-baskets——蛇遣いが蛇を収める籠[下図右]



[図中——

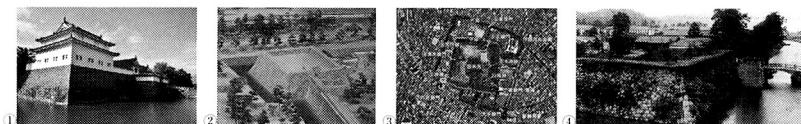


(一杯のお茶と静かな喫煙)

数マイルかそこら毎に茶屋があり、繁華なところでは一マイルの距離に数軒あることもあり、そこで一杯の茶と静かな喫煙に与えることができる。

蔦の這う古城<sup>41</sup>のある静岡を駆け抜けた。ここには前將軍が今や威厳ある退任〔大政奉還〕後に、世間の喧騒から遙か離れてお住まいになつてゐる。ぬ一っと現れる過剰に食餌を与えられた奇妙な衣装を着けた巨人たちの脇を通り抜けた——次から次へと急速な行列で、あたかも悪夢のようだつた。彼らは職業闘取で、その晩、町で興行することになつていたのだ。やがて我々は道の曲がり角にやって來たが、そこから霧のヴェールを通して、逆巻き泡立つ海をまっすぐ下に見下ろし、そして次第しだいに大なる平原が眼前に開けて來、そこから立ち上ったのはますます急峻になりつつ木々で刺繡された富士山の山腹で、途方も無く、天そのものと合流するかに見えたが、これは如何なる山でもこんな風になつてゐるのを見たことが無いし、富士山自体にしても他のいかなる単一の地点からはこのようには見えないものだ。

41 駿府城——静岡県静岡市葵区にあった。別名として府中城、静岡城。江戸時代には駿府藩や駿府城代が、明治維新期には再び駿府藩（間もなく静岡藩に改称）が置かれた。江戸初期には大御所政治（駿府政権）の中心地となつた。[駿府城 - Wikipedia]



①巽櫓 東御門（復元） ②駿府城の模型 [ 体験発掘希望者、求ム。駿府城跡でお宝見なるか？ ] ③[ 駿府城上空写真 - Bing images] ④ [ucl37-Sunpu Castle 駿府城 | 絵葉書資料館 (ehagaki.org)]

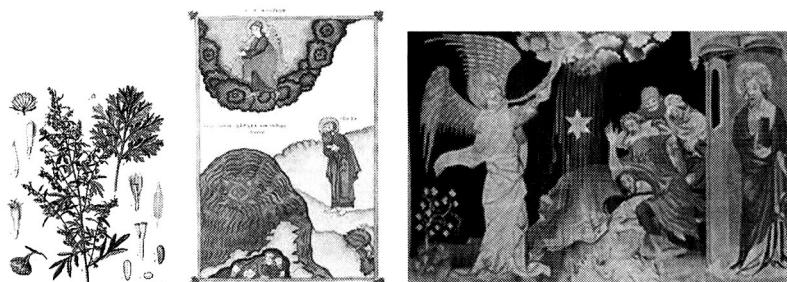
箱根峠は駕籠で登らなければならなかった。手打ちした料金は少額過ぎると宣言され、紳士的な駕籠かきたちは一連のやんわりした迫害を始め、我々の哀れな侘しい骨々を揺さぶり、不斷に、身体の位置を変える機会 [? <sup>42</sup>] を与えた。私はこう見始めた、すなわち、この小ゲームは、東洋の控えめな友人たちにとってとても大きな楽しみなので、私は相方に仕返ししようと言葉を送り、とても素敵なお急ぎな一発を発揮した。ゆさぶりが我々に対して計画される度毎に十分に体を持ち上げ、巧みに全体重を下に落とす、すると駕籠かきたちの哀れな肩はやがてあまりにひどく痛み出したので、彼らは「うさん臭く思つた」。大声の、だが不協和の哄笑がその結末で、それからは皆が、善きキリスト教徒のように親密になって後の行程を過ぎたのであった。

平地の茹だるような暑さの後では箱根高地は心地よく涼しく、またそこにはほとんど蚊はいなかった。丘陵は柔らかく丸く、鬱蒼とした森林が無い場合には、ニガヨモギ<sup>wormwood</sup><sup>43</sup>の藪で覆われていた。山羊は荒い牧草地で栄えていた。

42 原文は“cc asion”となっているが、“occasion”ではないかと推定する。

43 ニガヨモギ(苦蓬、学名：*Artemisia absinthium*)——キク科ヨモギ属の多年草あるいは亜灌木。生薬名は苦艾(くがい)といい、英語圏では wormwood(ワームウッド)とも呼ばれる。[\[ニガヨモギ - Wikipedia\]](#)

因みに——ニガヨモギ(英語：Wormwood, 古代ギリシャ語では ἀγίνθιον アグニシオンまたは ἀψινθος アプシンシオントス)は、ヨハネの黙示録に登場する星(ひいては天使のこと)である。[\[ニガヨモギ\(聖書\) - Wikipedia\]](#) ; 下右図



[左図] ニガヨモギのスケッチ [中図] 黙示録 "The third trumpet: destruction of the waters" の図 [右下端にニガヨモギが描かれる] [右図] The Third Trumpet and the Wormwood Star [左下端にニガヨモギが描かれる]

るようだったが、しかし幾らかでも飼育されていることは無かった。尾根を高さ約3000フィートのところで横切った。小さな町が深く絵のような湖の縁に沿って広がっていた——湖は古い火山のカップを占め、そこには木綿のような雲を冠した山々が鏡の中のように映っていた。深さは降雨により約2フィート変化する。

<sup>shallow</sup> 小舟の上で少し釣りをしたが、首尾はいまいちだった。聞いたところでは、以下のような魚の種類が湖にいるという——鱒（最良だ）、アカハラ<sup>red-belly</sup>（赤腹<sup>44</sup>）、鮎、鯉（本書表紙のデザイン参照）、鰻、一種のヒメハヤ<sup>m i n n o w</sup><sup>45</sup>だ。大なる輝く尾を持つイモリとトカゲがわんさといる。赤褐色の斑点を持つガマガエル、<sup>adder</sup> 毒蛇、少なくとも2変種の蛇——アオダイショウとヤマカガシ（ないしヤンタガチとも呼ばれているのを聞いた<sup>46</sup>）——がいる。この最後のものは怒って噛みつくが、しかし致命的ではない。大きいミズグモ<sup>water spider</sup><sup>47</sup>が泳ぎ回っており、また多くの薄いクリーム色で羽の後ろ半分に赤い色のつ

44 1 チャブ *Leuciscus cephalus* : コイ科ウダイ属の淡水魚：ヨーロッパ産。21と近縁の魚の総称。[<http://dictionary.goo.ne.jp/ej/15791/meaning/m0u/>]



Red Bellied Pacu

45 ヒメハヤ（姫鮎、英: Common minnow、学名: *Phoxinus phoxinus*）——コイ目コイ科に属する淡水魚。[ヒメハヤ - Wikipedia; 上図②]

46 [参考] 那須烏山〔栃木県〕では、「やまがじ」と言う。[なすから方言講座 | 那須烏山市公式ホームページ (nasukarasuyama.lg.jp)] 須坂〔長野県〕弁で「やまつかじ」と言う。[須坂の方言 - 須坂市公認ポータルサイト (いけいけすぎか) (suzaka.ne.jp)] 阿蘇〔熊本県〕では「アズキ」とか「アズキヘビ」と言う。[ヘビの仲間 | 阿蘇ペディア (aso-dm.net)] (上図③)

47 クモ綱クモ目ナミハグモ科。体長 1.5cm。2次的に水中生活に移った種でタナグモに近い。体は一様に褐色で、気泡を歩脚や体毛につけて、水草の間に張った鐘状の巣へ運び込む。ヨーロッパに広く分布するが、日本では北海道、本州、九州の数ヶ所で採集記録がある。[<https://kotobank.jp/word/%E3%83%9F%E3%82%BA%E3%82%B0%E3%83%A2-138599>; 上図④]

いた蝶を多く見た。蝶たちは、我が国のセイヨウスイカズラ<sup>48</sup>のような、しかし固く小さな星状の花をつけた甘く匂う植物の上で静止飛翔していた。小昆虫たちは、夕が迫ると群がって旋回していたが、しかし燕は見当たらなかつた——箱根峠の下では両側に多数いたのだが。

やがて平地に続く長い石ころだらけの土手道を大股で下って行ったが、平服を着ているが、断固たる警察官を追い越したが、彼は、私の長さで優る四肢に、仕方なく一歩譲った。私は夜になって小田原に着いた。グラス一杯の水を所望すると、得たものは、なかんずく、とても美しく大きい並のミミズ<sup>causeway earthworm vulgaris</sup>が一匹入ったものだった。それで私は、十日間に亘る日本の食事と消化不良の後で、横浜のロイヤル・ホテルで予想していた陽気な夕食への食欲をほとんど損なってしまったのだ。



[

## コラム 14

### 1) 築地病院における種痘

1877(明治 10) 年春のことである。読売新聞に小さな記事が載った。「築地南小田原町四丁目の築地病院の長ジョン、フチズ氏と櫛部鍋島の二人が周旋にて貧乏で困るものは無代で療治され大病人ハ入院をも許され診察八月曜日と木曜日また水曜日水にハ種痘もして呉るといふから療治を頼みたい方ハ遠慮なしに出なさいよ」というものである。この3日後、東京日日新聞には以下の記事が掲載された。「築地南小田原町に居留する築地病院長ホール [フォールズ] 氏ハ去る廿四より以来木曜日と月曜日にハ我が区内即ち第一大区十小区中の貧民へ救済のため診察施薬せられ水曜日には謝義なしで種痘せらると申し升ガ実に感すべきことで五座ります」。これら二つの記事から築地病院では月曜日と木曜日に築地病院に近い第一大区第十小区(京橋の相対借地、築地本願寺を含む築地病院近くの区域)の貧民を対象として無料診察が行われ、水曜日には種痘も無料でしていたということがわかる。読売新聞の「ジョン、フチズ氏」はヘンリー・フォールズの誤りであるが、日本人助手の名前には間違がいなく、これまでにも何回か登場している櫛部漸(コラム 9)と鍋島(名前不詳)という弟子が築地病院での診察に加わっていたことがわかる。明治初期における医療伝道病院では支払いのできる患者には薬代等を支払わせ、貧しい者は無料で診るというのが一般的だった。櫛部は 1875(明治 8) 年の築地病院設立以前からフォールズの下で医術を学んでおり、櫛部がフォールズの門を叩いた 1874 年から丸 3 年になる。彼はフォールズの代診ができるくらいの医師として成長していたことだろう。この記事の言うように櫛部と鍋島が診療・種痘をしていたとすると、彼らは医制(文部省より東京京都大阪三府へ達明治 7 年 8 月 18 日)の第三医師の

項に「種痘は天然痘病理治方の概略及び牛痘性状種法を心得たる者を検し仮免許を與て施術を許す（牛痘種法条例別冊あり）」とあることから彼らは少なくとも仮免許を得ていたと考えられる。

日本における種痘の普及は佐賀藩藩医の伊東玄朴が藩主鍋島直正を説得して除荷の手段により直接オランダ商館長に痘苗輸入を依頼したこと、嘉永元年（1848）年6月オランダ軍医モニッケによってもたらされた。この痘苗は善感せず、嘉永2年7月蘭船がもたらした牛痘痂〔かさぶた〕の接種が初めて善感をもたらしたこの種痘もモニッケによってなされた。彼は翌年正月までに小児381名に種痘を行うなど牛痘の普及に多大な貢献をした。痘苗は嘉永2年中に京都（日野鼎哉）、大阪（緒方洪庵）、江戸（伊東玄朴）、福井（笠原白翁）ほかに分苗伝達されて日本各地で接種が開始され、江戸を除く各地に除痘館が開設された。種痘は蘭方医たちの並々ならぬ努力によって普及した。江戸では伊東玄朴が中心となって種痘と痘苗の分与が行われ普及を見た。安政5年5月にお玉が池に種痘所が開設されたのは玄朴をはじめとする大槻俊齋、戸塚静海、竹内玄同、林洞海、箕作阮甫ら江戸の有力蘭方医の結集によるものだったが、同年11月15日に焼失。翌安政6（1859）年9月下旬谷和泉橋通（台東区台東1丁目）に新しく種痘所が完成した。万延元（1860）年玄朴らは幕府に対して、種痘所への公式援助を願い出、その年7月10日付の種痘奨励の触書をもって種痘は幕府の免許のものとなり、種痘所は種痘・解剖・教育の役割を果たす性質上教育機関として文久元（1861）年「西洋医学所」と改称、ついで文久三（1863）年「医学所」と改称された。明治元年「医学所」は明治政府に接収されて「医学校」と改称され、横浜の軍事病院を合わせて「大病院」となり、明治2年12月「大学東校」、明治4年7月文部省が設置され「東校」と組織の変化により名称を変えてい

く。しかし種痘館は設立時のまま東校にあり、種痘免許の授与が行われていたが明治4年ドイツ人教師の手により廃止、「種痘局」が設立され全国の種痘業務を統括していたが、明治5年これも廃止となり、種痘免許の授与業務は地方官へ移った。種痘がのちの東京大学医学部という教育機関を離れて地方行政へ移行したことにより、フォールズの築地病院にも分苗・協力要請があったのだろう。なお旧幕府の漢方医の拠点である「医学館」(1765年設立 1791官設)は「医学所」と同時に明治政府に接収されたがこちらは明治元年に廃止となった。なお、明治期の天然痘の大流行は3回あり、第1回は1885-87(明治18-20)年にかけて死者3万2千人、第2回1892-94(明治25-27)年にかけて死者2万4千人、第3回1896-97(明治29-30)年にかけて1万6千人であった。

種痘奨励のために藩政時代からいろいろな版画が配布された。



図 6 川田鴻斎の版画

図（出典：添川正夫「牛痘種痘法奨励の版画について」『日本医史学雑誌第三十巻一号』昭和59年1月）は、静岡県小笠郡小笠町下平川の種痘医川田鴻齋が牛痘種痘法奨励のために作ったものである。添川の論文には合計7枚のこのような種痘奨励の版画と解説が載っていて興味深い。

\*<sup>1</sup> この絵解き文では日本に痘瘡が初めて流行した年を天平八年とし  
ているが、天平七年（七三五）が通説。  
<sup>2</sup> 田川田代第四代鴻齋が小田原藩侍医市川類之の門に入つて牛痘種痘  
法を習得し、嘉永三年春から小笠地方でこれを実施したことと指す。  
<sup>3</sup> 原文で「・知リタキモノヘテ師門ニ於テ」となつてゐるのは彫師  
の彌り違いである。

\*<sup>4</sup> 「牛痘種痘辨」は、鴻齋が日本における痘瘡流行の始まり、人痘  
種痘法、牛痘種痘法について簡略に述べたもの。この中で、偽牛痘に  
は痘瘡を防ぐ力の無いことをも記している。

疱瘡の神とハ誰か名付けん  
惡魔外道の祟りなすもの」

夫痘瘡ハ昔天平八丙子年ヨリ我日本ニ流行シ  
夫ヨリ以來生ル、夥ノ小兒十二二三ハ死シ、又十二  
二三ハ醜貌トナルカ故ニ、唐、阿蘭陀ニテ  
色々ノ術ヲ行フトイヘトモ遂ニ免爾事無リシニ  
我寛政年間阿蘭陀ニテ牛痘法ト云  
フモノ始リ、我日本工モ四五五年以前ニ  
ワタリ、予師門ニ於テ庚辰ヨリ施ス  
モノ一万五千余人トイヘトモ千二一ツモ損スル事ナシ。  
然レトモ偽痘ト云テ痘瘡ニ似タル  
モノアリ。是ハ再ヒ種直スヘシ  
此事ヲ知ラシテ種ル医者モマ、之アリ  
是ハ人ヲ惑ス事ニテ宣シカラス。ソノ事ヲ  
知リタキモノハ予師門ニ於テ著スノ  
牛痘種法辨ト云フ書アリ、尋問ヘシ  
親の苦もぬけて樂む嬰兒乃千代の命を結ぶ尊さ  
千代の命を結ぶ尊さ

築地病院における種痘の記事が出た頃は、西南戦争（明治10年2月～9月）の真っただ中である。戦争が終わるか終わらないかのうちにコレラが発生した。大陸から潜入り横浜ついで東京へとコレラは広がったが、当時東京大学医学部\*の御雇教師だったベルツは十月四日に「横浜では少しひどかった——日に死亡およそ二十名、ほとんど全部が日本人である。しかし、これでも比較的よい方である。ただし自分は、これというのも、消毒により悪疫の蔓延を防いだ医師や警察のまったく敬服に



マクドナルド  
「静岡教会六十年史」

値する努力のお蔭であるとするよりも、むしろ夜間すこぶる清涼となつた事情によるものと思う。」と記している。続けて「ところが今日、本土の南部と九州にあるほとんど全部の鎮台にコレラが発生したとの報道に接した。これらの兵隊は隔離され新しい仮兵舎へ、しかも常に少しづつ区切って収容されねばならない。しかしそれには医師が必要だ。これが軍隊の方では足りないので、政府はわれわれの学校の最上級生全部を徴用した。学生たちは、明日にはもう横浜で船に乗せられる。」とコレラの蔓延による医療崩壊の状況を書いている。医学生を駆り出す医師不足の中フォールズもコレラ対策に協力することになった。

\*東校は明治5（1872）年8月学制施行により「第一大学区医学校」と改称、明治7年5月「東京医学校」と改称、明治9（1976）年11月本郷に移転、明治10（1877）年4月東京開成学校との合併により東京大学が成立すると「東京大学医学部」となった。明治19（1886）年3月には「帝国大学医学部」になった。

ベルツ来日時（明治9年6月）は「東京医学校」だった。着任から1年もたたないうちに「東京大学医学部」となった。

1) 参考文献『東京大学百年史』、『醫制五十年史』内務省衛生局

2) カナダ・メソジスト教会医療宣教師のマクドナルド（1836-1905）と築地病院

前回のコラム13のイブスキ（井深梶之介か？）に続いて築地病院に関する不可思議な記述の紹介である。カナダ・ウェスレアン・メソジスト教会が送り出した2人の宣教師ジョージ・コクラン（カックラン）とディヴィドソン・マクドナルドは1873年6月30日に横浜に上陸した。2人は横浜山手に借家して英語と聖書を教えていたが、マクドナルドは1874（明治7）年1月築地に仮寓する。マクドナルドはトロント大学医学部卒の接手礼を受けた宣教師である。太田愛人『明治キリスト教の流域』の五「医療宣教師マクドナルド」の項にマクドナルド門下の土屋彦六が「日本伝道めぐみのあと」に書き残したエピ

ソードとして以下のようにある。

「やがてカックラン氏は横浜に居を定め、それを根拠となして伝道に着手し、マクドナルド氏は東京に出て、医を以て布教の端を開かんとしたのであった。然し乍、<sup>ながら</sup> 東京には既にドクトル・フォールド [フォールズ] 氏が病院を開き至れば、其の目的を達せず、マクドナルド氏はフォールド氏の病院に調剤師として働き、徐々にその目的を達せんとしたのである。<sup>あたか</sup> 怖もその時に次のような相談があった。静岡に在りて、旧幕臣の青年を世話せる人見寧氏は余の兄、杉山孫六が、當時横浜に在りて、ブラオン [ブラウン] 氏より英語を修業中であった縁故をたどりて、何人か無給にて静岡に來り、英語を教えて呉れる宣教師はなきや、と書面にて頼み込んだのである。兄孫六は、此事をブラオン氏に相談したるところ、同氏はカックラン氏を紹介せられ、さらにカックラン氏は、マクドナルド氏と協議の結果、マクドナルド氏が静岡に行くことになったのである。其れは明治7年 [4月8日] のことであった。マクドナルド氏は名義上、人見氏の雇となりて静岡に赴いたのであった。」

このエピソードの前半が問題である。これは明治7年のこととして記されているが、フォールズは明治7年3月8日に横浜に到着したのである\*。横浜滞在のあと東京の江戸ホテルに滞在していた頃のことであり、本格的病院としての築地病院竣工はこの1年後のことになる。そもそもマクドナルドの方が1年早く来日しているのである。築地病院が完成したころマクドナルドはすでに静岡の賤機舎で英語と科学を教えていた。また明治10年10月29日 屋形町に公立静岡病院が開設されると顧問となり、毎週火木土の午後2時から無償で診療、彼の医療伝道を実践していた。トロント大学医学部卒業の医師マクドナ

ルドが敢えて調剤師として働きとあるのも奇妙である。築地病院には調剤師は別に存在していた。このような事情からマクドナルドと築地病院に関するこの記述は誤りであることは間違いないのだが、それでも土屋彦六がマクドナルドの弟子であり、兄の杉山孫六が楽善会訓盲院の初期のころからのメンバーであり、フォールズ宅・築地病院で開かれていた会合に参加していてフォールズと築地病院を知っていたことは間違いないことを勘案すると、この記述を全くの出鱈目と切り捨てる事はできないのである。逆にフォールズとマクドナルドの間に何らかの協働があったのかもしれないと考えざるを得ない。フォールズの宣教館は築地居留地 18 番（明治 8 年 12 月）、それと背中合わせに隣接する 5 番はカナダ・メソジスト教会のマクドナルドたちの宣教館である。マクドナルドとフォールズの接点は今後の研究が待たれる。

\* 「宣教医ヘンリーフォールズの・活動の場 東京相対借地」『東日本英学史研究』第 18 号、2019 を参照したい。

(ながお・しろう 名誉教授)

(たかはた・みよこ 英学史研究家)